

〈ニュースリリース〉

日本印度学仏教学会第 64 回学術大会実行委員会
(公益財団法人中村元東方研究所)

日本印度学仏教学会第64回学術大会開催のお知らせ

日本印度学仏教学会第 64 回学術大会実行委員会（実行委員長：前田専學博士）では、平成 25 年 8 月 31 日（土）、9 月 1 日（日）の両日、島根県民会館（島根県松江市）を会場に、日本印度学仏教学会第 64 回学術大会を開催します。日本印度学仏教学会（本部：東京都文京区）は会員数約 2400 名を擁する、人文系としては国内最大規模の学術団体であり、毎年国内各地で開催される年次学術大会には国内外から二日間でのべ 600 名ほどの会員が参集します。

本年はこの学術大会を、公益財団法人中村元東方研究所（東京都千代田区）と特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所（島根県松江市）が共同開催校となって、両団体の創立に関係が深く、また生前、日本印度学仏教学会の活動にも多大な貢献をした、日本を代表するインド学・仏教学研究の大家・故中村元博士（公益財団法人中村元東方研究所の前身、財団法人東方研究所・東方学院の創立者、東京大学名誉教授）の生誕地である島根県松江市において開催します。

本年の学術大会では通常の部会と併せ、開催地・松江の文化風土にちなみ、特別部会として「日本の思想・文化の源流と仏教」が設けられるほか、二日目午後にかかるパネル発表においては「出雲神話と日本仏教」（司会：蓑輪顕量・東京大学大学院教授）と題するパネルが設けられ、藤岡大拙（荒神谷博物館館長）氏、小泉凡（島根県立大学短期大学部教授）氏が登壇の予定です。また、学術大会開催期間中は、会場において書籍販売のコーナーが設けられます。

なお、大会前日の 8 月 30 日（金）には、松江での学術大会の開催を記念して、くにびきメッセ（松江市学園南）において公開講演会の開催が予定されております。

大会の公式 web サイト (<http://tohoimbuds2013.blogspot.jp/>) では、大会プログラムなど、第 64 回大会の詳しい情報をご覧いただけますので、こちらもぜひ御参照ください。

開催概要

- 【 日 時 】 2013 年 8 月 31 日（土）、9 月 1 日（日）
【 場 所 】 島根県民会館（島根県松江市殿町 158）
【 主 催 】 日本印度学仏教学会第 64 回学術大会実行委員会
【 開 催 校 】 公益財団法人 中村元東方研究所
 特定非営利活動法人 中村元記念館東洋思想文化研究所
【 参 加 費 】 2000 円（会員／一般とも）
 （※一般からの聴講には制限がありますので、詳細はお問い合わせ下さい。）

以上

※添付資料

- 1) 学会案内ちらし
- 2) 中村元記念館のしおり
- 3) 参考資料（《中村元東方研究所と東方学院》・《東方学院の理念と成り立ち》）
- 4) 招致記念・公開講演会ちらし（参考）

★ 本学術大会に関するお問い合わせ、取材のご希望等につきましては、お手数ですが下記問い合わせ先までご連絡いただければ幸いです。

日本印度学仏教学会第 64 回学術大会実行委員会・事務局

担当：佐々木一憲（主事補・広報）

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 公益財団法人中村元東方研究所内

電話：03-3251-4081 FAX：03-3251-4082

e-mail：info@toho.or.jp

公式 web サイト <http://www.toho.or.jp/>

参考資料

《中村元東方研究所と東方学院》

公益財団法人中村元東方研究所は、文化勲章受章者・東京大学名誉教授の中村元博士(1912-1999:島根県松江市生まれ、哲学者、宗教学者)が、旧制第一高等学校時代の友人達の協力を得て、私財を投じ設立した学術研究団体です。仏教学、インド哲学など、東洋思想・文化の研究を軸に、真理探究と人間性の回復を目指し、1970年11月に文部省(当時)より設立の認可を受けて以来、着実な成果を挙げながら、今日も所属の研究員30名、外部の連携研究員120名を擁する東洋随一の学術団体として活動を続けています。2012年の公益法人認定にあわせて、法人名を旧・財団法人東方研究会から現在の公益財団法人中村元東方研究所に改称しました。

研究面では、2009年度の日本学士院奨励賞・日本学術振興会賞受賞授賞者(西村玲研究員)を輩出したほか、科学研究費補助金の採択率でも例年高いレベルを維持するなど、その意欲的な活動は広く公に認められています。また、神社・仏閣との共催で、文化講座を日本各地で開催し、講師を派遣するなど、研究成果の一般への普及にも積極的に取り組んでおります。

研究所は1973年に東方学院を設立し、真に学を究め、道を究めたいと望む全ての人に、開かれた学究の場を提供してまいりました。創業者中村元博士の没後は、その薫陶を受けた学者たちを中心に同分野の研究者たちが集い、中村元博士の遺志を継いでいます。

東方学院長には、公益財団法人中村元東方研究所理事長の前田専學博士(インド哲学者、宗教学者)が就き、中村博士の理想である研究者主導による、営利を目的としない学院運営を維持しています。

《東方学院の理念と成り立ち》

「真に教えたい一人と真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ」。これが創業者である中村元の信念であり、東方学院の原点です。東方学院は、この学院設立の理念に賛同する学者個人と、そのもとで学ぼうと志す学徒とによって構成される学問共同体、言い換えれば〈個人指導の場の共同体〉というべきものを目指しています。

設立当初、各大学には学園紛争の嵐が吹き荒れ、学術的には衰退の、精神的には砂漠化の傾向が進んでいました。そうしたなかであって、学術的、精神的な拠点となりうる、小さくともしっかりした学院をつくるのが、中村博士の当学院設立の目的でした。また、学問の自由を制約する縄張り意識やセクショナリズムを排して、真理の探究を目的とする学問本来の姿を回復することを目指して、当学院は、大学の外にあって、カルチャーセンターとも異なる、一種の私塾、「寺子屋」として出発しました。

現在は、学院の理念に賛同する日本最高レベルの講師陣50名が、報酬を度外視し、また、学歴・年齢・職業・国籍・性別にとらわれることなく、真に学問を愛する人のために、懇切に指導にあたっています。研究会員(受講生)は現在、現役の大学生から80歳代の方まで、おおよそ220名にのびります。

講義は一般と個別研究からなる思想部門。ベンガル語講座をはじめ、サンスクリット語、パーリ語など、アジア諸国の古典言語と文化を学ぶ語学部門、仏像彫刻やインド書楽などの実習部門という三部門を揃えるほか、時代にニーズに応えるべく、「臨床人間学入門」、「陰陽の宇宙論と東アジア」など、新講座の開設も積極的に進め、2013年度は、東京・中部(名古屋、石川、岐阜)・関西(大阪・京都・奈良)の各校で、全76講座(集中講座6講座を含む)を開講。また、提携校として東方学院の松江校を中村元記念館(島根県松江市)内に開設するなど、ますます学びの輪を広げています。